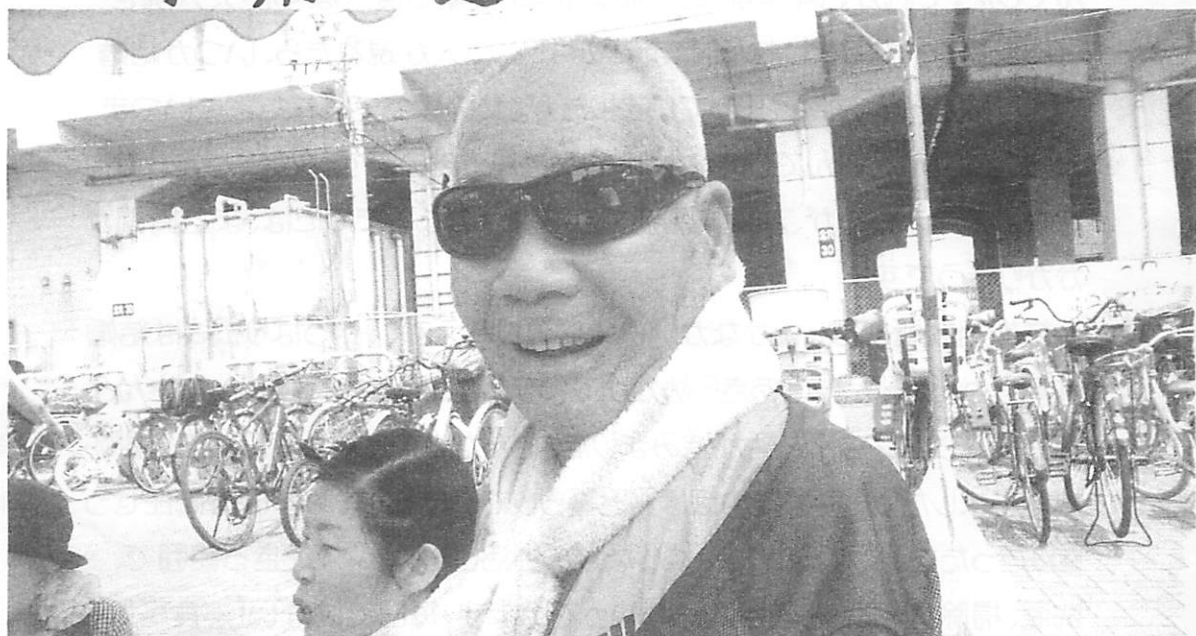


2016年7月1日 毎月1回1日発行 通巻455号
1984年10月4日 第三種郵便物認可 頒価 200円

月刊 わらじ 7月号

特集 愛より〇〇



おとさんと藤田音次郎さん(87才)としばらくぶりに再会。ここは「どくんご」が去ってすぐの北越谷駅西口のさくら広場。「セタフェスタ」(越谷市男女共生参画推進センター「ほっと越谷」主催)の会場で。相変わらず元気で、毎朝4時から2時間、朝飯前のウォーキングを欠かさない。いつも1万歩以上、時には2万歩にも。この日も、朝飯の後、「セタフェスタ」に出店している元市職員組合の退職仲間たちのテントにいた。

おとさんの華々しき「わらじデビュー」は1997～8年。当時パタパタの通所者だった知的障害の白倉清美さんが市立病院の組合事務所で職場実習を行ったとき。この実習は、いまはない職域開発援助事業という公的制度を活用し、援助者に手当が支給され、注目を浴びた。このときに、「技術援助パートナー」(組合委員長)の下で、清美さんを病院職員たちにつなげるボランティアを務めた。当時おとさんは67才の市職員OB。長年の組合活動での信頼関係が生まれた。ちなみにこの写真左下に映っているのは楢垣さん。当時の看護師長。この実習は東映の教育映画「街で生きる障害者とともに」(大熊監督)に記録されている。

おとさんはまた、元市職員組合委員長で市議になった佐々木さんと二人で、一人暮らしの藤崎稔さんの入浴介助を何年にもわたり務め、その様子が自治労の全国機関紙で報道された。

おとさんは越ヶ谷町の高等小学校を卒業し、16歳から加須の駅員になったが、低賃金のため3年で辞め、高給の研磨工となり工場を渡り歩く。40歳になり越谷市職員に採用され、清掃現場に入るが、そこは「飯場」。コネで入った古株がさぼり後輩に負担を押し付ける。「町工場じゃつぶれちゃう」。おとさんは組合の若手たちと一緒に現場を改革し、役所の現業差別とも闘った。越谷の職場・地域を拓いた功労者だ。

愛より〇〇

草加市 宮部 幸絵

私事ですが、6月11日に入籍いたしました、旧姓富倉です。だんなさんとは、結婚相談所で知り合いました。私が結婚相談所に通おうと思ったきっかけは、父の入院でした。父は、5年くらい前にうつ病にかかり通院していました。少し元気はありませんでしたが、日常生活には問題はありませんでした。それが、1年半前くらいに悪化し、食事も食べなくなり、入院せざるを得なくなりました。それまで私は、いい人が現れたら、いつか結婚できればな〜と漠然と思っていました。父の建ててくれた家にいつまでものほほんと住んでいてはいけないと思ったのです。父は、なんとか退院はできましたが、普通に生活できるようになるまでには、まだ時間がかかりそうです。

結婚相談所では、なかなかいい人に巡り合えず、「やっぱり私には結婚は無理かも…」と半分あきらめかけていました。そんな時にだんなさんと出会い、トントン拍子に話が進みました。だんなさんと暮らし初めて2週間が経ちましたが、実家でのほほんと暮らしていた私は、家事は母に任せっきりだったため、てんやわんやしながら生活しています。できる範囲で、洗濯、掃除、食事作りをなんとかやっています。毎日ではないし、食事作りはだんなさんと交代で作っています。不思議なもので、実家では気にならなかった、部屋の中の埃や、お風呂場の汚れなどが気になり、他に掃除をする人がいないとなると、やるもんだなぁと実感しています。今、一番の悩みは、洗濯物を部屋干しにしているため、なかなか乾かないことです。

「愛より生活」な日々を送っていますが、今まで家族が気持ちよく生活できるようにがんばってくれていた両親への感謝を忘れずに、だんなさんとも協力しながらがんばって行きたいです。みなさんから教えていただくことも多々あると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

もくじ

7月号

特集

愛より

〇〇

愛より〇〇 ... 愛より生活

あいやい〇〇 ~ 愛より酒

愛より I (アイ)

愛より カイゴ

「ふれあいの日」

~自由とは愛より深く冷たく

...そして淋しい

会沢完の愛よりお金?

「あいやい〇〇」

宮部 幸絵 P.1

阿久津和子 P.2

匿名さん P.3

おやまみゆき P.5

植土 秀 P.6

会沢 完

内藤 純 P.7

野口 稜太 P.10

TOKOな日々

越谷市教育委員会との話し合い

高校問題県交券の報告

続: 林檎の溜息番外編 熊本日誌
おまけ

フラッシュバックの研究

近況報告です

気望亭の味 61

私の生きてきた道 ~高校生編③~

隠居のくりごとざれごと日誌
NO.99

克己絵日記 赤いボール、
No. 403

日常茶飯事 その232

牛で読もう 牛で話そう

社会福祉法人 つぐみ共生会

夏のお知らせ

小さな新聞 7月号 第00402号

スケジュール 会計報告

清水

竹迫 和子 P.9

金子 ゆかり P.11

橋本建祐 P.12

脇田 可奈 P.13

大沢 清次 P.14

石植 恵太 P.15

ほんだいさお P.16

橋本 克己 P.18

ANIKO P.21

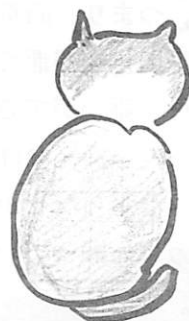
荻野好友 P.22

吉原 満 P.23

P.25

P.26

P.27



～あいより〇〇～

越谷市 阿久津和子

原稿の依頼を受け、タイトル「あいより〇〇」と聞いた時、瞬時に『愛より酒』の言葉が浮かんた。依頼者は「あいは、愛でなく、藍とか哀とかまた……」と続けられたが、そうか「藍より出でて藍より青し」を連想すべきなのかなあと思いながらも、『酒』の話にしようと思う。

現在、酒をこよなく愛し(!?) 休肝日がとれないことが、目下の悩みだ。人間ドックの前日も“飲み”をやめられない。これが依存と言われたら否定はできない。

いつ頃から毎日飲むようになったのかと考えると、28歳になる息子が「肢体不自由児養護学校」へ入学した頃からだったように思う。つまりもう20年間余りになるかと思うと末恐ろしい。

入学前は、入退院が続き、付き添いをしている入院中はもとより、日々ゆっくり飲むような状況にはなかった。しかし、主治医の「6歳ぐらまでは弱くて大変だが、それを乗り越えれば体が出来てくる小学入学時ぐらいになると、安定してくるからね」の言葉通り、養護学校入学ごろから少しはゆっくりと過ごせる時間も持てるようになった。

すると入学前までは、やみくもに日々過ごしていたものが、いくら訓練・訓練・養育といっても先が見えてきた。

「この子は、一生私が食べさせていかなければならない」ということが重くなってきた。この「食べさせていかなければならない」というのは扶養ではなく、文字通り介助して口まで食べ物を運び、咀嚼を確認し、ごっくんしたら、また……という一連の動作である。

そんな時、養育会で知り合った先輩のお母さんから、ふと漏らした私の思いに「ビールを脇に置いて、この子を抱きながら食事をあげているのよ。もう長くなるわ」との言葉に飛びついた。その日から、ビールをプシュと開けるのが、夕食の開始の合図となった。

もういまでは、テーブルに本日の予定の我がお飲み物(!)すべてを並べてからの夕食である。つまり、酒量は増えることはあっても、減ることはなかなかというところである。

息子の体調が悪くなるとさすがに断酒できるし、高等部の時の入院中は全然平気で飲まずに付き添いができていたので大丈夫との言い訳がましい気持ちをもってはいるが、さすがに酒量を抑えなければ体に良くないでしょうとの思いはあるし、冷静に将来も考える。

書きながらなぜか反省文みたいになってきたが、今しばらく『愛より酒』の日々が続きますようにと願っている。それは息子が元気で日々一緒に食事を共にし、暮らしている証だからだ。

特集 = あいり 〇〇

愛より I (アイ) ……

匿名希望

今回は、少し落ち込んでいて 自分に自信が持てないので

匿名希望にさせてください。

今月のテーマ「愛より〇〇」の依頼をいただき、「どうは〜」と家の中で叫んでいたら、夫が「おは、愛より金た」と言い、息子に「愛よりゲームた？」と言い、息子はスマホのゲームに夢中になりながらうなづいていました。

「お母さん(私のこと)は愛より戦いた？」と言われ、「そうかもしれない」と納得しました。

つい最近まで、家庭でも地域の活動でもよく「タタカッテ」していました。

「タタカッテ」ほど夢中になり、自分を通したあつ、晴々とした気分ではありましたが、相手方とは残念ながら二度と会えなくなりました。

さびしい、むかしい気持で「何して来たのか〜」と思う気持が半分です。結局私は「愛より I た、た、たか〜」と。

「愛より〇〇」のテーマを聞いた時、「このテーマ、今の私とは、ほど遠いかな」と思いましたが、こんなに今の心境にはまっているとは…書いていると落ちつきます。

さうさ自分の中で「Iより愛」になれると良いと諦めくくろうとしましたが、せっかく「愛より I」にしてもらったのだから、今を大事にします。ちなみに、この原稿を夫に読んで聞かせたら、「…」と言われ、息子は、今度はパソコンに向かっ、聞いていません。

父は昨夏に3回の誤嚥性肺炎をして入院しました。8月末に退院した時は主治医に「すぐ死ぬぞ!」と言われたのでした。ところがどっこい。あれから10か月経過しても、まだ生きてます。

慢性の嚥下障害を抱えて、むせながら柔らかご飯を食べ、サラダを食べ、大好物の肉団子を歯の無い歯茎で咀嚼しています。中でも甘いものは真っ先に食べます。なんで甘いものばかり?と思ったら、父も大好きなスーパーヘルパーさんが「最期に残る味覚は甘みだけだから」だそうです。間違いなく父は終末期なのです。

5月には91歳の誕生日を迎えましたが「最後の誕生日になりそうだね」とみんなが言います。でもどうでしょうね。しぶとくまだ生きるのではと思います。私が先に死にそうです。

月に2回~3回訪問医が来てくださり、先日の血液検査で慢性腎障害が出てきたといわれました。いわゆるネフローゼだそうです。

「太った。」と思ったのは浮腫みだったのです。それから毎週の訪問入浴の時に体重を測ってもらっていますが、昨夏の在宅介護開始時より20kg太りました。すべて浮腫みです。

お腹が妊婦のようにぼっこり膨らんでいます。

なので、体位交換時やおむつ替えの時は、重くてしょうがないです。

腰を痛めたくないので、父に協力してもらいながら体位交換しています。

しかし、重いつつっつ!!!!

一年半前に会社を辞めた時は、近くでパートでも探すつもりでしたが、あれよあれよという間に、私の意に反して親の介護に突入してしまいました。

正直「こんなはずじゃなかった」と思っています。さらには、夫と弟が両親の会社を継がなかったので会社を清算作業に奔走し、税金を払ったら親の貯金が空っぽになりました。

その後、夫と弟は個人事業主として活動していて、二人の経理作業もしなければならず、父のおむつ替えと食事の準備。母の精神病の服薬管理や食事の支度。ヘルパーさんや訪問看護師さんケアマネさんとの交渉。訪問医の対応とやる事がたくさんあり、気が付いたらパートに出る時間もなかったのです。(泣)

ヘルパーさんは「もうすぐ死ぬ死ぬ」と言いますが、一向にその気配はなく、私はため息ばかりの毎日です。いちどに親二人を介護する日が来るとは思わなかったです。一人でも大変なのに、ふたりも……。私の人生返してくれええええ。と世界の中心で叫びたい今日この頃です。

だけど今いちばん楽しいのは、ヘルパーさんや訪問看護師さんや介護のプロの人たちとの話です。実際に介護をしているので、それにかかわる様々な話が聞けたのは良かったと思います。また明日も訪問看護師さんと話をしながら、その日が来るのを待ちます!

たぶんその時はバンザイと叫んでいることでしょう!(笑)

階下で父が私を呼ぶことがあるそうです。でも私は聞こえないので、母がえっちらおっちら階段をあがって私を呼びに来ます。「一階と二階でピンポン付けようよ!」と言いますが「いやだよ。始終ピンポンと呼ばれる身にもなってみてよ。」と拒否する私は大変な親不孝モノです(笑)はい、すみません(笑)

みなさまご無沙汰しております。久しぶりの投稿です。

昨年末に母の認知症に加えて発達障害が判明し、現在の症状に対する服薬（ウインタミン）も始まり、なんとか落ち着いた生活を送っています。。。と言いたいところですが、

相変わらず母に振り回されています。

母の一番困った症状はお金を使うことです。母の中で決まったルールがあり、それを違ったりいつもとは違う事をする、と、騒ぎだして暴れまくって止まりません。やれやれです。

例えば、牛乳が大好きで宅配の牛乳を飲んでいますが、なんと4種類もの牛乳を毎日飲むのです。

毎週水曜日と日曜日は近所の銭湯に行くのですが、銭湯に行く日は決まって私に「千円ちょうだい！」と言って私から千円をふんだくっていきます。銭湯代は460円なのでおつりがくるだろうと思っていると「お金は全然残らない！」というのです。なんで？と聞くとお風呂上りに牛乳をあれこれ4~5種類も飲むのだそうです。お金大好きで数字大好きな母は金額を言えますが、牛乳の銘柄は言えません(泣)

何を飲んでるの？と聞いても「知らない。」「忘れた。」としか言いません(泣) 認知症があるしね(泣) 母を発達障害と診断してくださった先生の勧めで成年後見制度を利用し、私が後見人に選任されました。なので母の財産管理や収支報告をしなければならなくて、しちめんどくさい事にちまちまと毎日家計簿のようにつけているものがあるのです。

それに書かなきゃいけないのですが、宅配の牛乳代に毎月2万円(!) お風呂上がりの牛乳に2千円近く(!) 本当に脳みそがグチャグチャになりそうな報告書を書いています。

「牛乳の種類を4種類から3種類に減らそうね。」と言っても「ヤダ!!」と聞き入れず。。。。

孫の面倒を見ているほうがよっぽど楽です(泣)

近年はカルシウムの取りすぎによる弊害があるようですが、そんなことを母は聞き入れる訳がなく。まあせいぜい好きなものを召し上がってくださいませ。というしかないのです。

血圧の薬は5種類くらい飲んでいますが、3月から4月にかけては血圧が200前後を推移する日が多く、最高で296なんていう日もありましたが、母には全く自覚症状がありませんでした。血圧はもともと高く、180が一番低いのです。なので200なんて珍しくないの、周りがびっくりすると、こちらが逆にびっくりします。「そんなにいけないことなの？」と。それでも銭湯へ行き入浴しました。お湯の中で浮きもせず、ちゃんとひとりで家に帰ってきています(泣)

決まった事しかしなくて、先のことを考えられなくて、昔も今も夫子供より自分が一番でなきゃ気が済まず。周りの状況は全く目に入らず。いつでもどこでも自分中心。主介護者の私が父に目が行くと、とたんにキレ出します。(怒) 何とかしてくれ！このババア！と思うのです。母親というよりは母親の器がないのに子供を産んじゃったのね。という感じです。本当に迷惑!! こんなやつを妻に選んだ父も恨みます！発達障害とわかっていても！です。

『 ふれあいの日 』

—自由とは愛より深く冷たく・・・そして淋しい—

越谷市 樋上 秀

第30回数「ふれあいの日」が6月5日に終了した。私は昔の越谷公民館で開催の頃から係り、10年ほど前までは実行委員会にも、わらじの会から参加していた。10年ほど役員を担当した。現在はトモノさんが参加して「ふれあいの日」の顔にもなっている。私の前がアライユタカさんであった。私が委員会に参加していた当時「ふれあいの日」実行委員会の重鎮である紫陽花頭さんと時々衝突した。若かった私は「ふれあいの日」を単独でやる意味はあるのか。市民まつりなどと協働でやる策はないのかと、よく嘯みついてた。これはアライさんも唱えていた。当時の「ふれあいの日」は福祉の関係者以外は皆無とってよかった。中には気楽に来ている人もいたが現在の様なアットホームな雰囲気ではなかった。当時はアットホームというより身内の慰安会という雰囲気では私には肌が合わなかった。紫陽花頭さんは私に「ヒガミくんの考えも一理ある。でも今は早い。私が亡くなったらヒガミくんの好きにしてください」と陰で言った。

その紫陽花頭さんの涙を一度だけ拝見した事があった。99年の秋、わらじの会では川辺のコンサートを開催する。このコンサートこそが現在のウッドデッキ販売、水辺の市、夏の風物詩で9条の会の灯ろう流し等、川辺イベントの原型なのである。それまで市役所、中央市民会館周辺の野外活動は一般に禁止されていた。今でこそ市民活動は常識になりました。私がわらじの会に関わった昔は奉仕活動ととらえて、余裕がある人の贅沢な美德という印象が付いて回った。それが高齢化、少子化の波に多くの人が声を上げる様になる。わらじの会とは市民活動の先駆けでもありました。されどパイオニアゆえに生みの苦しみをそれなりに味わった。99年のコンサートは世間的には、わらじの会だから出来た事と言われたりもしたが、それまでの多くの人との関係があり、その先駆けの歴史が20年余りあった結果だ。中央市民会館前の川辺、中土手の特設会場で開催された。歳月の重みを感じさせる出来事だったのです。

紫陽花頭さんは泣いていた。それは自由の大切さを実感する涙なのかも知れない。日本は戦後の最近まで決して自由な国ではなかった事を知る涙。残念ながら自由の中にいると自由は薄れてゆく、自由は当然の認識になる。自由とは淋しいものかもしれません。もちろん出演の歌い手に心動かされたのでしょ。自由に発言出来る事の重さ。自由に口論できる事の深さを実感する泣き顔だった気もする。音楽の力とは理屈ぬきに凄いと感じた。紫陽花頭さんとは口論したが、私は生意気と今にしたら思える。紫陽花頭さんは古くから行政畑を歩き自分も障害者として自由に発言出来ない時代も嘯み締めたはずで、自由に時として気ままに発言するヒガミは当時、生意気だったに違いない。その紫陽花頭さんは数年前に亡くなった。

最近の「ふれあいの日」を観賞するにつけて悔しいけれど、続ける事の大切さを知る羽目になりました。例え慰安会的であったとしても毎年着実に啓蒙し続ける事。例え課題があったとしても今のアットホームな感覚は悪くはない。十数年前にイトウのテッチャンと、わらじ曼荼羅を展示コーナーにと意気込んで製作にあたったが間に合わず、かなりテンパッタ「ふれあいの日」が何度かあった。わらじの会の展示は「間に合わず陳謝」だけの表示。あれには紫陽花頭さんも呆れていました。そんなヒガミが今年の会場では和んだ感覚に不覚にも涙してしまいました。紫陽花頭さんだけは見られたくない・・・歳かな・・・会場の向かいウッドデッキでも国際交流の和が・・・様々なイベントが出来るのは何より嬉しい事です。それでも自由とは愛より深く・・・そして淋しい。

会沢完の 愛よりお金？

話し手：会沢完（越谷市）

聞き手：内藤（春日部市）

内藤：完さんにとって愛とは？

会沢：「愛する」とか「愛は勝つ」とか、「門間愛さん」の愛とか。

内藤：愛するって？

会沢：ん～。まあね、あれ、いつも仕事が終わると、いやー疲れたなって、自分思うんですけど、ビールとか酒とかチューハイとか、その他つまみ買って、買うんですよ、ローソンとかセブンで。合宿とかキャンプみたいだなって。オエヴィスで。そう思うなって自分では思うんですけど。そういう感じですかね。

内藤：それが愛するって事？

会沢：愛って、分からない。全く。例えば愛人とかよく言うけど。愛人って言ったら、テレサ・テンの「愛人」とか、「別れの予感」とか「つぐない」とか。そういう事です。

～YOUTUBE でテレサ・テン「愛人」を聞いてみる～

会沢：尽く～して～、泣きぬ～れて～、そして愛～され～て～♪

内藤：俺、愛されてるな～、と感じた事はありますか？

会沢：全くなし。

～YOUTUBE でテレサ・テン「別れの予感」を聞いてみる～

内藤：歌詞で「痛いほど好きだから、どこへも行かないで」とありますが。

会沢：たとえば「コンビニ行かないで」とか。仕事終わると、自分冷たいジュースか酒を買うんですよ。だけど他の人はどう思っているか、何を買ってるのかとか。

～YOUTUBE でテレサ・テン「つぐない」を聞いてみる～

会沢：「いつもあなたの匂いがするわ」って自分もあります。汗臭いとか暑苦しいとか、気持ち悪いよ、とか。うん、まあ着替えた方がいいんじゃないの、とか。タオルで汗ふくとか、そういう事です。

～ちょっと小休止～

会沢：考えたんです、自分。言ってもいい？ すっごい大事な物はお金。

内藤：お金が愛って事？ じゃあ、お金より大事な物とかは？

会沢：サイフ？ まち子さん？ 土田さんじゃないの？ あ、まち子さんじゃなくて土田さんだ。食べることが心配で、昼代とかそういうの困らないの？ 夕方は黒田さんとか来るけど、木曜は板倉さんかな、夕方。まあそんな感じかな。でも、最近では言わなくなったですね。「お金がない」とか。今までは言ってたけど。最近はお金を溜めてるんですよ。



始めてから29年も経って、少しずつでも入れるようになってきたはずなのですが。高校も通常学級も、たとえ入れなくても、一緒に学ぶことが当然の権利なんだというのをどんどん思えなくさせられてきていることを感じます。

今回の交渉の要望項目1「なぜ一緒に学ぶことが大切なのか」という基本的な質問に対し、特別支援教育課の担当者が答えたのにまずびっくり。もちろん、達成感が持てるよう特別な場に「分ける」ことが大切という、回答になっていない回答なのだが。就労の状況から見ても、分ける教育では進んでいかないと指摘しても、特別な場を求める子どもが増えているとか、支援籍はまだ回数が少ないがしっかりとがんばるとか。特別支援教育を受ける生徒が急増していることを盾に取って、方向性としては「一緒に」だが「分ける」必要があると粘る。分けた先でどうなるのか？どうなったのか？には答えない。

義務教育指導課はどうかといえば、教科がわからない子どもがかわいそうで、保護者に授業の様子を見てもらい、検査も受けてもらい、徹底的に話し合っただけで支援学級へ、理社は母体の学級で、ときめ細かくやっているという。なんだこれは?!親子の気持ちを考えているのか?30年前と変わっていないじゃないか!いや支援籍とかの施策なのだ。つい期待して、余計なお世話だ!と断ち切れないケースも少なくない。

この30年間は何かあったんだと思いたくはなるが、「一緒にが大切」とか「教育で分けておいて共生はありえない」といったことをていねいに伝えていかなければならないと改めて思った。県や市にも、親にも。

さて、高校入試についてだが、入試要項に差別解消法の法律名を入れるとか、受験時の配慮は「実施に伴う負担が過重でない時に行う」と変えるという。それで、差別解消法の趣旨が伝わるのか、「負担が過重でない」を字面だけ読むと逆行していく可能性だってある。それはきちんと説明するとのことだが・・・。新しい法律は活かして、知的障害などで得点がむずかしくても受け入れよう、はたらきかけていかなければならない。

おいでください

県の人たちに声を伝える機会です!!!

総合県交渉:8月30日(火)、31日(水)。

※学校の話し合いの日時はまだ未定です。

ミニTOKOおしゃべり会 (毎月第2金曜日午前10時半~in オエヴィスの居間にて)
8月はお休み、9月9日、10月14日

連絡先/090-2202-(中山)・048-761-9921(藤ヶ谷)

タ!サイタマおしゃべり会 (毎月最終土曜日午後1時~in コムナーレ(浦和パルコ9F))
7月30日、8月はお休み、9月24日、10月29日

連絡先/090-6658-4519(門坂)・048-942-7543(竹迫)

※予定・場所は変更になる場合があります。お問い合わせください。

5/23 越谷市教育委員会との話し合い

越谷市 清水

要望書の確認と意見交流をしました

市内小学校の運動会の振り替え休日で参加者が少なかったが、その中で保護者と一緒に2名の児童の参加がありました。彼女たちは、会議の場をわきまえて静かに同席していました。

話し合いの中で『本来は障害のある子もない子も地域の通常学級で共に育ち、共に学ぶことが大切である。現状では・・・「多様な学びの場」を用意しそこの教育を選択できるようにしている』という基本方針を確認していますが、多様な学びの場が増え続けているのに疑問を感じました。子供の数は減少傾向にあるのに小中学校の支援学級や支援学校が増設されるのはなぜでしょうか？ちょっと問題があると違う場所という指導が進んでいるように感じます。私の息子は通級以外のすべての場所を経験していますが、支援が手厚くなるほどに地域との交流がなくなることを実感しています。またどの場所においても学校生活に問題（担任の資質、支援員の配置、お友達とのトラブルなど）があったときに在籍学校の先生たちが、担任まかせにせず学校全体で考えうけとめてくれることで問題解決しています。この問題は障害のある子に限ったことではないのではないのでしょうか。

違うことを認める、理解することは一緒に生活してこそ育つと思います。

高校問題県交渉の報告

竹迫和子

6月30日、今年度第1回目の高校問題の県交渉がありました。いつも参加しているメンバーに加えて、埼玉障害者自立生活協会の事務局で「かつぼ」の店番もしている坂口佳代子さんや90年ごろ「増田裁判」を行った増田純一さん、せ一緒からは松丸さん、埼玉高教組の羽田書記長などが参加しました。また、途中から県立富士見高校三年生の前田海里くん親子も参加しました。しかし、今年も今のところ私たちが応援する、点数が取るのはむずかしくても高校でみんなと一緒に学びたい！！という受験者はいません。同じ県民の子どもなのになぜ高校で学べないの？障害があるとなぜ特別支援学校高等部じゃなきゃ入れないの？と高校の門をたたき

「あいより〇〇」

野口 稜太（春日部市）

「あいより〇〇」……………。

普通の人だったら「愛よりお金」とか「愛より時間」っていうようなテーマで話が展開されていくかと思います。「愛じゃ腹は膨れねーんだよ！！」「金で心が満たされる訳ねーだろ！！」「ふざけるな！パシッ、ドゴッ、ゲシッ、ゴスッ」「やめ、……っ！グッ、かはっ…、…っあ、なっ…、ぐあゝあゝ」

「…俺がお前を殺すまで、誰にも殺されるなよ」去りながら相手の声が微かにだが聞こえた。完全に去ったのを確認し、強ばる身体から一気にふにやりと力が抜けた。何故見知らぬ相手にここまでされたか理由を考えるよりも先に、痛みで感覚が麻痺する身体と、与えられる衝撃から解放された安心感と同時にスッと意識を手放した。

的な（笑）展開を期待していたかと思いますが、オタッキー気質な私は「あいより〇〇」という言葉を聞くとすぐ「文月晃」作の「藍より青し」という漫画が頭の中に浮かんできてしまいます。

この作品のタイトル「藍より青し」は荀子の言葉「青は藍より出でて藍より青し」が由来になっています。意味は弟子が師を超えることのたとえ。（青色の染料は草の藍からとるが、それはもとの藍草よりももっと青いということから。）主人公の成長を促すためにも師匠キャラは欠かせません。ドラゴンボールの孫悟空と亀仙人、孫悟飯とピッコロ。ワンピースのモンキー・D・ルフィとシルバース・レイリー。鋼の錬金術師のエルリック兄弟とイズミ・カーティス。るろうに剣心の緋村剣心と比古清十郎。などなど有名作品には必ずといっていいほど、熱い師弟関係が描かれています。この師匠キャラにはバタな法則が存在します。①とにかく豪快②過去の経緯から仇敵がいる。→弟子同士で対決させられることが多い。③難病を抱えている。④酒豪（笑）⑤最終的には弟子の足元にも及ばなくなる。などなど。他にも調子に乗った弟子を庇って死ぬなど、たいてい師匠は主人公が強くなるための踏み台となることが多いのです。

師弟関係が描かれた様々な作品の中で私の1番のお気に入り、細田守監督作品「バケモノの子」です。以下あらすじ。主人公、9歳の少年・蓮は両親の離婚、母の死などで頼れる人が誰もいなくなってしまう。独りぼっちである。行くあてもなく裏通りでうずくまっていた夜、蓮は「熊徹」と名乗るバケモノに出会う。「独りでも生きていきたい」との思いから蓮は『強さ』を求めてそのバケモノを探しているうちに、バケモノの世界へ迷い込んでしまう。自分を追ってバケモノの世界に踏み込んだ蓮を熊徹は見込みがあると判断し、蓮は熊徹の弟子となる。最初はいがみ合い衝突し合った2人も、次第に素の自分を出し合っただけでいっしょによりいっしょに親子のような関係が結ばれていく。血の繋がりもない、顔を合わせれば喧嘩ばかり。でも、心の中ではお互いの事を思いやっている。男ってバカで不器用な生き物だよなーと感じさせる作品です。正直涙が止まりませんでした。

娘に「パパって熊徹みたいに見えるよだねー」と言われる私ですが「蓮と熊徹」に負けない関係を子ども達と作っていきたいと思う今日この頃です。

続：林檎の溜息番外編 熊本日誌おまけ

金子ゆかり（熊本県）

地震から約一か月後、父が倒れる。

5/22(日) 深夜 1:35。アスファルトにへばりついてびらびら震えるビニール袋みたいな気分の夜に父が心臓の痛みを訴えて救急車で運ばれる。帰りの事を考えて、母を救急車に乗り、私は車で病院へ。搬送先の病院は少し遠く、救急車の後をついていこうにも赤信号ですぐに見失ってしまう。深夜の国道はとても静かで、ラジオのジャズがせわしなく揺れている。音楽は闇を潜り抜けるサーチライトのようだ。目的の病院はたまたま先月見舞いに行った知人の入院先だったので、深夜ではあったが道に迷う事はなく、なんとかたどり着くことができた。心電図や造影CTなどの検査の結果を待つ。二時間ほどで、心膜炎という病気の可能性が高いと循環器科の医者から説明有。他の病気の現れることも考えられるので二、三日入院して検査するとのこと。看護婦から入院に必要な物を聞き、用意のために一旦家に帰る。朝6時。空は明るかった。

5/23(月)

父は意識ははっきりしており、痛みのせいかわ弱ってはいるが反応はいい。父、私会社に休みの電話を入れ（これが一番面倒だ）午前中は家事をして、午後は再び病院へ。今度は母に運転してもらおう。（病院までの道順を覚えるため）パジャマやタオルなど必要な物資を届けると父は早く帰って寝なさいと気遣う。本当は不安なんだろう。常に持ち歩いているスポーツ新聞を読む気力はないらしい。帰って、昼食。食事が余る。少し仮眠。ふおんふおんと風にあおられるカーテンを眺めながら布団の海を漂う。わら細工の会報が届いていた。日々色んな事はあっても根底のらしさがぶれないところにほっとする。

5/24 (火)

今日まで休みをもらい、協会けんぽに高額療養費の申請書を出しに行く。

5/26(木)

検査の結果が良好だったため、父退院。原因は未だにわからず。紹介状を書いてもらい、近くの病院で昼間は受診できるようになった。二週間ほど心臓の痛みをとる薬を飲んで様子見。

5/27(金)

職場復帰。知らない間に人が辞めて、給料欠勤で二万減額になる。父は間食をやめて痩せなさいと言われていたが、それはまさしく私にも言えて、私もたまに心臓に刺す痛みを感じることがあるので暗澹たる気分になる。明日は我が身。地震といい、父の入院といい、なんなんだ。ここから学べることはなんなんだ。明日死ぬかもしれないという強迫観念が強くなる。明日死ぬとしたらまだ後悔だらけだ。だから今日もビニール袋みたいにへばりついている。煩惱や人情やしがらみやらの水たまりの中で。

3年前に春の選抜高校野球の決勝戦を見ていて、済美高校の宇楽投手が疲弊がたまって浦和学院の打線に7かま
り大差で負けてしまいました。試合後のインタビューで「うまくコント
ールできなかったのは、自分の力不足です」と言っていて疲弊がたまって
いた姿を全然言い訳している女の方のど偉いと思いました。

今から10年以上前に、チューリップという発達障害の子のグループの子
たちとかがやに行きました。ある男の子がドラえもんエンディングテーマ
だったアクリルのたんぽぽの詩という曲を歌っていてとてもいい曲
で涙が出そうになりました。

今から20年以上前にジブリのおもいでぼろぼろというアニメの
映画を見て主人公の女の子が小学生の頃の思い出をすごくよ
く思い出すのでフライング・バグみたいだと思いました。

15年前にわらじの夏合宿に行ったら、田中信長君という男の子
と同じ班になりました。信長君は、とても素直でいい子でした。
今でも信長君に会いたくなることがあります。

最近読んだ本

外国のドナウリプスさんという自閉症の女の子が書いた
自閉症だったわたしという本を読んでいます。ドナウリプスさ
んは、他人とうまく接するために別の人格をつくり出したりの
大変苦痛さんだったみたいです。面白いのでぜひ読んでください。



らん子

しんごの
この映画は
面白いよ



たかま

じりんのこの
はなは100%ニ
だわ。



じりー

このだじり
の作品は面白
いよ。



さき子

ちばのこの
漫画は
面白いよ



ゆきみ

私語の
こも書かして
本も読まない



たけし

ちばのこの
本は面白
だよ

近況報告です。

脇田可奈(春日#布)

今回近況報告でいいからという事だったので近況報告をさせていたと思います。
春日部からの引越は大変でしたが今は落ち着いたので毎日穏やか(?)
暮らしています。愛知へ来て何が変わったかといえば、間違いない食生活が
変わりました。週に1度母の作った食事を食べる様になって、自分では
気をつけているつもりなんですが、娘には食べ過ぎたと言われてしまいます。
こちらの生活は基本的に春日部と変わらない生活です。平日はヘルパー
に来てもらっていて入浴や家事援助をしてもらっています。私はまだ家にいる事
が多いですが、今後は外出を増やしていく予定です。別々に暮らしていた次女と
一緒に暮らす様になったんですが、離れている間に体も大きくなりましたが、
中学2年生という複雑な時期と重なって接し方に迷います。誰もが通る道ですが
あまり気にせず、今は放っています。ジメジメした梅雨な季節で気分も体調も
スッキリしません。暑さに負けず頑張ります。埼玉の夏も厳しいですが、
名古屋の夏も同じく厳しい！
夏に向けて体調を整えていきます。近況報告でした。

気望亭の味 61

大沢 清次 (青森市)

今日久々に電動車椅子に乗って散歩に出かけてみた。ちょっと近くを見学に行ってみた。帰ってきたところにいつも話し掛けてくれる人が、何処いってきたのと聞かれたので、ちょっと近くを見学にと言ったら、ここの近くにはファミマとデイリーがあるんだよと教えてくれた。免許を取ったら早速行ってみようと思った。

施設内の免許を取らないと外にはいけない規則があつて、6月にその試験があると聞いた。なので早速申し込んだ。出来たら一発合格を狙ってるが、いまの試験は4月に3人事故を起こしたらしくて、受からせない試験になったと聞いた。僕は余計に受かる気持ちに火がついて、いまめらめら燃えている。この気持ちを維持して、一発合格を狙いに行く。

受かったらまず皆様に報告をと思っていますので、7月に書きたいと思います。皆様の応援と祈る心を握りしめて、合格を勝ち取りたいと思います。どうか皆様応援をよろしくお願いします。

今月の希望亭のレシピは、これからの一品。

変わり簡単冷やし中華です

材料

卵一個、やきそば麺一袋、きゅうり一本、ハム1P、カイワレ大根1P

下拵え

きゅうりハムは千切りにしておく。卵は薄焼きにして千切り。

合わせだし

薄口1：みりん酒1：1砂糖大さじ1：酢1：ごま油0.25

だしの素少々。濃かったら水で薄めてね

やきそば麺は一回湯通ししておく。冷蔵庫で保管。

ガラスの器に麺を入れてその上に綺麗に具材を並べて、合わせだしをよくかき混ぜて具材の上からかける、辛し紅しょうがはお好きに付け足す。シーチキンを入れても変わり冷やしでいいですよ。ハムの代わりにソーセージでもきゅうりの代わりにレア酢でもいいと思います。

とにかく好きな具材を入れて、好きなように、暑い夏を乗り切るために栄養と食事をと考えます。ひじきを一回炊いて、酢で合わせて載せるとかもさっぱりしていいのでは？

以上変わり簡単冷やし中華でした

暑い夏に備えて好きなものを冷たく美味しくいただく料理を考えて、お子様や旦那さん、おじいちゃん、おばあちゃんに召し上がって頂いて下さい。以上。

私の生きてきた道

～ 高校生編 ③ ～

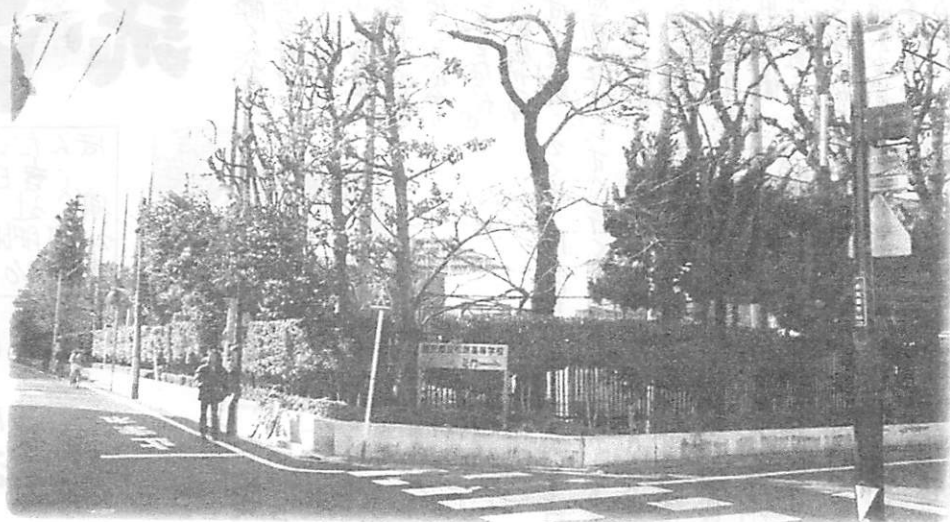
つげ けいた
柘植 恵太 (狭山市)

【第21回】 「テージセイ」の高校生活

前号では、高校の友人を掲載しましたが、今回は私が入学した当時（1990年）の定時制高校の学校生活を紹介したいと思います。定時制は4年制で、当時は全学年2クラス・全日製の教室と入れ替わりで教室が使われていました。私がいたクラス1年B組は、年齢の差も幅広く、上は50代から下は私と同様、中学を卒業してすぐ入学した生徒も多くいました。職業も様々で、現役の看護師や会社員・解体業者・家業を継ぐなどしている人がいて、休憩時間に交流して話すのが非常に楽しかった。

定時制のタイムテーブルは、授業が始まる前に17時過ぎに校舎の別棟にある給食室の食堂で夕食を食べてから18時に1時間目が開始。途中休憩が入り一日3マス・50分単位の授業で、午後9時に授業終了という流れだった。帰宅後は、途中で下高井戸駅周辺にある日大通りで喫茶店などに入ってお茶をしてから帰宅するという流れだった。学校から帰るときに驚かされたのは、自宅が世田谷区や周辺かと思いきや、遠くは品川区や八王子市から毎日通学する友人もいて、通学エリアの広さに驚いた。

次号は、初めてのアルバイトを書こうと思います。



この角を曲がれば・・・ 松原高校です！



「下血」のこままつ

隠居の入り口と ざれざれと日記

ほんたいざお (春日部市) 桐司 77歳
挿絵 辻野 44歳
連載 No. 99

炎天
レールまっすぐ

山頭火

六月二日(木)晴れ

南部厚生病院の皮膚科受診の
病室備え付けの血圧計で110/70を記
録し、気分もよくなって来た。ふんばは少
なほどだが、

六月三日(金)晴れ

「アミノ」で、職業労働者のみならず、残
業代はとらんともらって、いますか?、とい
う呼びかけがあった。びびり、

六月四日(土)晴れ

「えん」仕事。午後からゆつくと、

六月五日(日)雨、くもり

「下痢かな?」と思ったがトイレでは見切
れしエマシで呼吸が苦しかった。仰向けに
寝ていると比較的呼吸が楽になるよう
に感じた。H坂さん、H先生、吉野屋の
牛丼も夜摂った。肩と息を上げがら
ま、うまい、と思った。ものも食べたのは
これが最後だった。その後、異変を
感じた。H坂さん、H先生と平野さん
を連れて再訪した。しかし、この
日から「下血」とは言えなかった。気が
いらなかった。

六月六日(月)くもり

入院したければ、と思った。松本さんとSOSを
したら、藤崎くんの泊り明けの団地だった。H
藤くもも駆けつけてくれた。よりあま、行きつ
ける。南部厚生病院の内科に頼ることにした。

六月七日(火)晴れ

内科の先生が香
和をすぐ手配して、くちくちで、はじめて、はが
りの点滴もはずし、おこなう。行くように、お
こした。松本さんの車で急行。車検、使った。車
子、入院手続き、駆けつけた平野さん、
若林さん、洗面、H坂さん、
入院の準備。ストレッチャー、レントゲンが出たのは、4から、5分、が、ゆ、から、の、



六月十二日(日)

未明、続いていた下血が止まった。トイレは
看護士さんの監視つき。排泄物の色も、こま、ま、し
必ず目立ちは、は、な、い、入院、え、た、下、血、箇、所、は、不、明、の、ま、つ、月、め、ら、
夕方は独りで、は、地、に、行、け、な、い、と、な、り、た、は、ク、リア、大、腸、は、退、院、後、だ、

六月十七日(金)晴れ

昼前に退院の知らせの公のみ、さん
が毎日病室をまわってくれた。ありがたう
が、外が暗くなるまで、ベッドに入らなかつた。
給食が、ない、と、夜、が、長、い、を、れ、で、車、椅子、

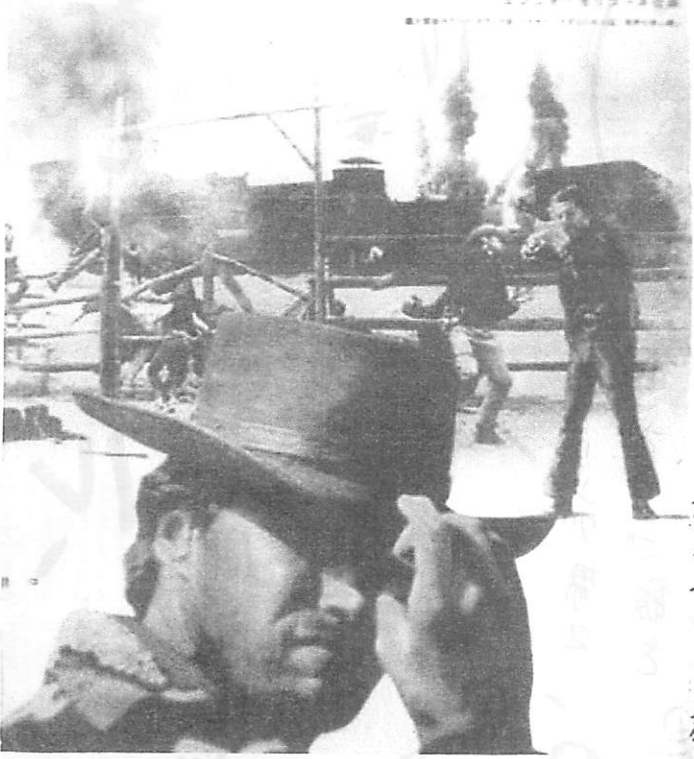
梅影



荒野の用心棒

原田四郎の記録

絶天景色 テクニスコープ クリント・イーストウッド主演



1964年「マカロニウェスタン」スロイン
 1977年公開された黒澤明の「用心棒」を見て感
 銘を受けたヒルジオ・リネ作品。当時TV「ロ・ハ
 ド」でプレイ中だったフロント・イーストウッド主演
 1960年から1977年まで西部劇が作られていたがその
 1977年西部劇は二の白晝画がアメリカで大ヒットしたニヒ
 存象的に知られるようになった。落着目のTV俳優と
 られていたフロント・イーストウッドはヨーロッパにも有名を人



六月十八日(土)晴れ
 終日安静。秀和病院西棟
 は若い看護士さんが多かった。レ
 かに触りに来る看護士さんやま
 まなく結婚して大阪に転勤する
 主人について行く、という看護士
 さんらが懐かしい。きょうの食事は市
 販のお糰子三食もすませた。
 六月十九日(日)晴れ
 おさるおさる階段を下りて自転
 車に跨った。ヘルメットを踏んたら動
 いたので思い切って、タジメ横の散歩や

お見舞いのお返しに雨が上ルのを待
 六月二十三日(木)雨のそそり
 六月二十三日(木)雨のそそり
 から月を見上げた。確かに赤味が
 かつに神秘的な月だったよ。
 六月二十三日(木)雨のそそり
 から月を見上げた。確かに赤味が
 かつに神秘的な月だったよ。

六月二十三日(木)雨
 昨夜のBS甲斐FMORESTALは、昨年
 日の東京公演の録画だった。事
 調べる。月△月初回放映という再
 送もまじある。メンバーはそれ
 忙なんだろ。が、メンバーはそれ
 六月二十九日(水)曇り
 朝仕事を終えて、きのうの自
 いた自肉を入れて食にきしめんを
 退院して、まもなく二週目を迎
 なが顔色がよくなった、と言
 かし、食の中心はやわらかいもの
 七月四日にはじめての通院診
 ぱん大腸内視鏡検査のうちあけ
 と思いが断ち切ろうと思っ



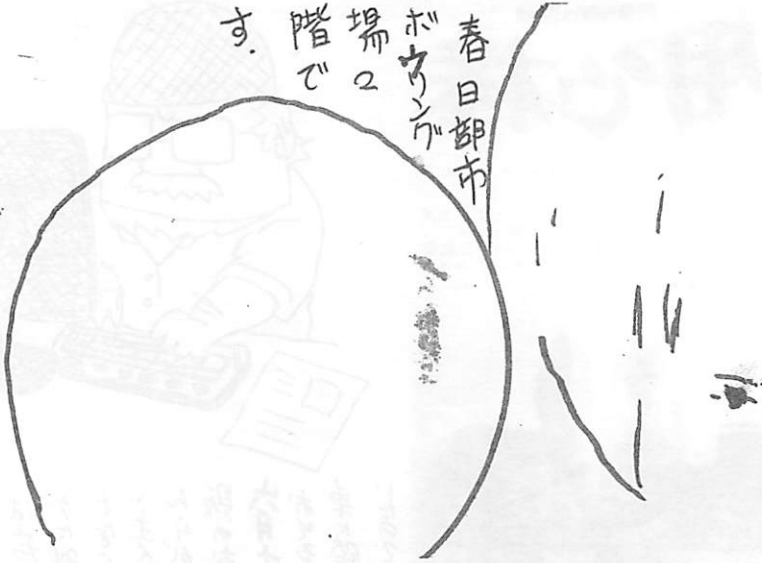
Shall We 断通?

記組記
NO.403

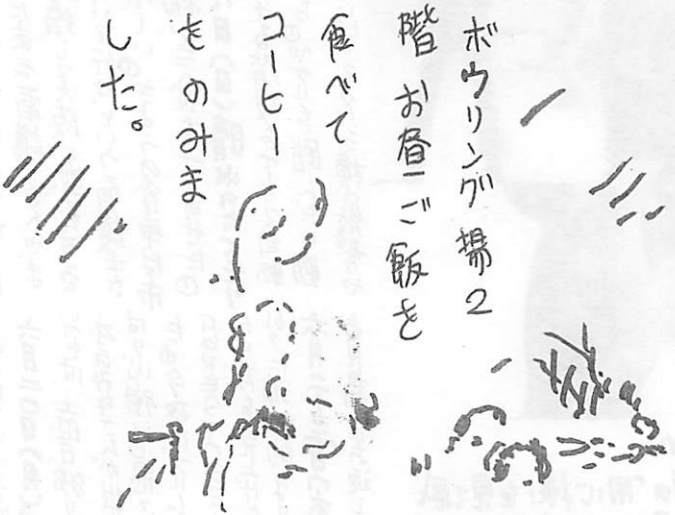
赤いボール

聞き書き 萩野好反 新田重佳 飯文山下 漢
橋本克己

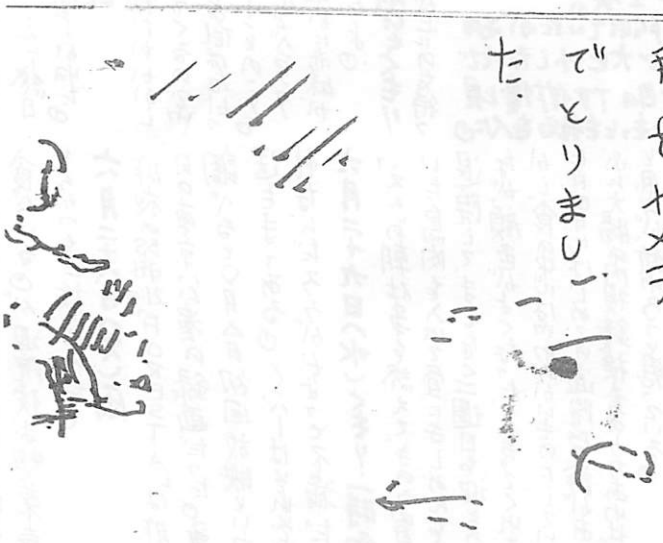
春日部市
ホウリンガ
場の
階で
す。



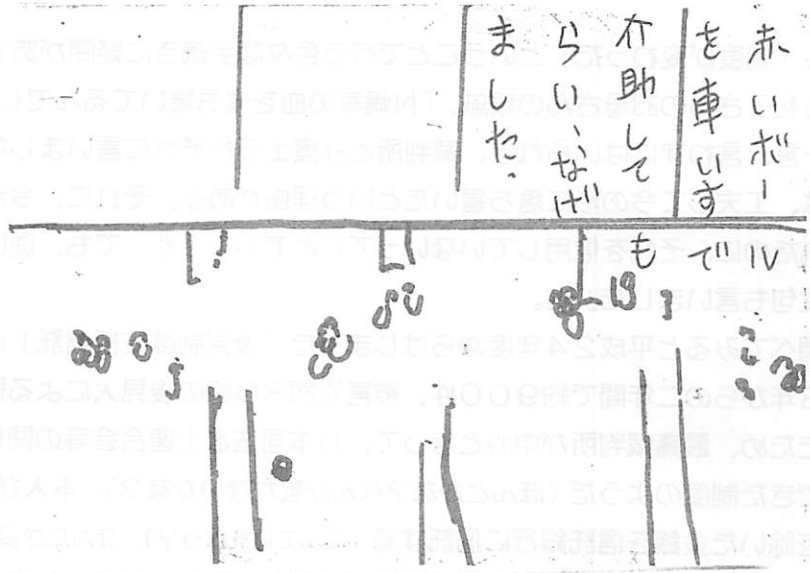
ホウリンガ場の
階 お昼ご飯を
食べて
コーヒー
ものみま
した。



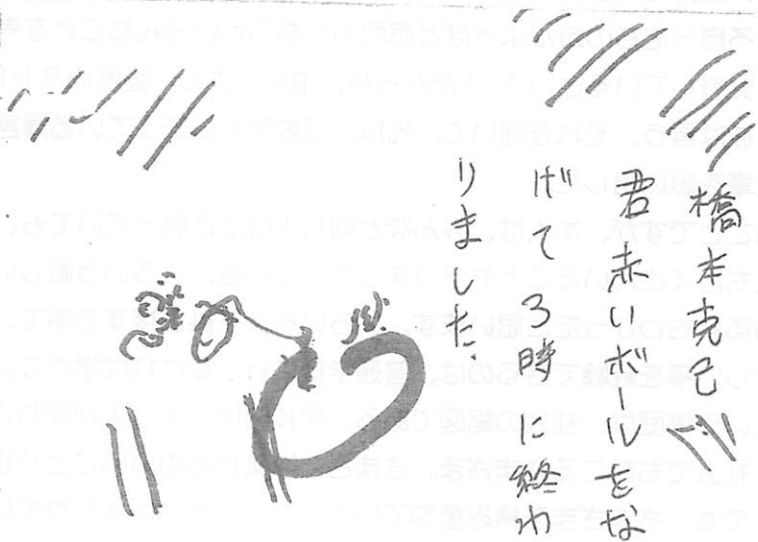
ホウリンガめってる
新カメラ
でとりました
た。



悪魔の種が
 赤いボール、あれは克己自身
 焔の弥勒 ゆらゆらと流れ



90点
 はいりま
 した。



橋本克己
 君赤いボールをな
 げて3時に終わ
 りました。

日常茶飯事その244

by ANKO

今日は由利子さんの虫歯の治療のために、従兄弟のN嶋さんと上尾リハビリセンターに行く。そんなわけで、ペシみて午前中を過していた。会報製本作業の前日なのにまだ原稿が書けない、困ったなあ・・・と悩んでいる時、目に入ったのは、なんとなく暇そうにしている藤崎大先生。そうだ！これだ。こんな時に泣きついたらいい人だ・・・と藤崎君に聞き書きをさせてくれ！と頼んだ。いまいちの反応だったが、今月の特集のテーマは「あいより〇〇」だよ・・・という、目がきらりと光った。

◆愛より健康が第一だよ！BY稔

俺は今年54歳。54歳っていうのはさ、面倒くさいんだよ。愛とかどうでもよくて、他に大事なものがある。例えばさ、俺の体が歩けたら、どこにでも行くさ。誰かから文句を言われたら逃げられる。嫌だったら、何言ってんだよってどっかに行くよ。(って、これってさ、年齢関係ないんじゃない・障害のことじゃない？とつっこむ)、若い時は、イヤイヤやっても、なんだかイケた！だったぜ。例えば、家にいた時だってさ、(家の中では畳の上になっ転がって過ごしていた)、足が挟まって痛いことがあっても、なんとかしようじゃなくって、何とかなるって待っていると、誰かが帰ってくる。「お兄ちゃん痛そうね、ゲラゲラ」って言いながら、妹が姿勢を直してくれた。「ありがとう」って言って俺も笑った。家では誰かがいたから、足が痛くても痛くないっていうのかな、治ってきたらなんかになって、病院なんか行かなかった。ところが今は、治んねえんだよな(と少し遠い目をしている)。何でだろうな、歳なのかなって思う。病院に行きたくないけど、たとえばお腹が痛いのがあったりすると、長くって、あっちこっちも辛くなって、「どうなっちゃうのかな？」って心配になっていやになっちゃう。気持ちがいやむ。

なんかさ、だんだん女性がさ、信じられないんだよ。何回もふられているしさ。あいつらさ、優しいふりして、俺の事なんだと思っているんだろう。最近、みんな看護婦さんみたいになってさ、男も女も遊びに行こうっていう俺の誘いにのってこないんだよ、俺もいろいろ疲れちゃって面白く感じてないのもあるのかな。

◆被害を受けるという視点はずした日常生活とは?!・・・

N嶋さんは由利子さんの成年後見人。由利子さんとN嶋さんと車で上尾リハビリセンターに向かう途中、いろいろな話をした。ここのところで制度が変わって、財産に関しては弁護士、日常生活に関しては成年後見のN嶋さんと言う形になったという。由利子さんの成年後見になって丸8年を過ぎようとしているN嶋さんにとって、今回、裁判所



から「制度が変わった」ということで行う色々な手続きに疑問があるという。N嶋さんは由利子さんのお母さんの親戚。「N嶋家の血を僕も継いでるんでしょかね。どうしても一言、言わずにはいられず、裁判所と弁護士それぞれに言いましたよ。今までのやり方は、工夫して今の形に落ち着いたという理由がある。それに、今までこれでやってこられたのに、それを信用していないってことでしょ！と。でも、従いましたけどね、でも文句も言いました」と。

調べてみると平成24年度からはじまった「後見制度支援信託」の影響らしい。平成23年からの二年間で約900件、被害総額80億の後見人による財産の不正行為があったため、最高裁判所が中心となって、日本司法書士連合会等の関係機関と協議を重ねてできた制度のようだ（ほんとかな？なんか裏がないかな？）。本人が日常生活で使用する分を除いた金銭を信託銀行に信託する（なんで信託銀行？）。なんだか変な感じ！ここで言っている「本人の日常生活」ってどんな風にイメージしているのだろうか。

昔、目も見えず話すことも動くこともできない新坂きみ子さんが、電車に乗ったり外出した時、「楽しいんですかねえ」と担当医が首をかしげたことがあった。生活ホームオエヴィスの立ち上げ時に、ストレッチャーに横たわりながら「介助してくんろ！」と駅前でチラシまきをしていた光子さんを見て、「重病人にあんなことさせて」と苦情の電話がきたこともあった。でも彼女たちにとってはそれが日常生活であった。日常生活ってひとくくりにならないってこと、裁判所や司法書士の関係者は思い浮かべただろうか。

◆適度のストレスは大事ですよね！・・

N嶋さんは、仏事関係の仕事をしているので、色んな人に出会うそうだが、その度に由利子さんの人との付き合い方のうまさを確認するという。そんな中で「適度のストレスは大事だよ」と言う話になった。すぐにキれるお坊さんが結構いて、それはお坊さんの狭い世界での日常にストレスが少ないからではないかとN嶋さんは言う。娑婆で暮している自分たちの方がよっぽど忍耐力もあるいろいろなことを考えながら過ごしている、と実感しているという。「だからね、由利子さん、適度のストレスって大事なんですよ」と彼は言う。それを聞いて、先日、通常学級に通っている障害を持つ子供のお母さんの文章を思い出した。

「悲しいことですが、本人は、みんなと同じ人間だと思っても、障害のある人を差別する人もたくさんいることも学びました。これは、こういう厳しい差別が社会に出てもある事もわかったと思います。いろいろな子供と接する事で、たくさんうれしい事、悲しい事を経験できるのは、普通学級に行かなければ学べないと思います」

学校という集団は、社会の縮図である。学校の中で人と人が関わりあうことで起きる様々は、社会でも起こるさまざま。さまざまは気持ちのいいことや正しい事ばかりじゃないよ。でも、さまざまを積み重ねていくことで、生活は作られていくんだ！

『手で読もう 手で話そう』

『みやこ連8-206』

『越谷市荻野好友』

先月面白かった 白井さん 退院でした
また 本田さん 入院 ずっと 寝てま
す 克己さん 絵日記旅 お見舞いしまし
た 本田さん 克己さん 手話 出来ない
会話 O, K でした 新井さん 介護
克己さん 買い物 通無い 旗本さん
少し 似てます E・T 違います 『はい
い』 見て 和漢内 聞く こと 『はい
買い物 聞きいて ない 場所 和漢内
新井さん 自分 頑張っ て じゃない
シンガポール して 分かり安い 充分
O, K 大丈夫 思います 実 習の
とにかく いいです 例えば 『お菓子』
販売 また 絵日記の販売 いいでも
目 耳 聞こえないので 山下さん 通訳
『夢は 夜ひらく』 『マドンナ達』
克己さん 顔 見て 『名前』 いう
忘れない 覚えたい 『名前』 と覚える
荻野 『県立大学など』 手話 サークル
上村さん 手話 覚え ない 段々 出来る
まもなく 『新しい りょうもう号』
見たい 買いたい 思います

七月七日 七夕です 藤原(み)さん

「佐藤B作さんにて済」

おめでとう
おめでとう
おめでとう

手で読もう
手で話そう

社会福祉法人つぐみ共生会

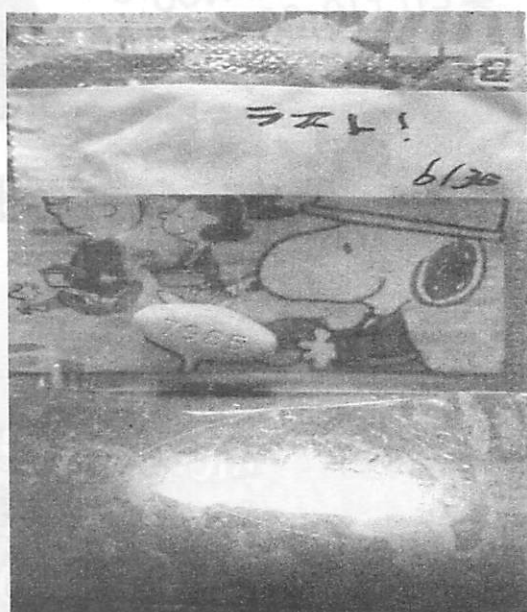
吉原 満

あつい・アツイ・暑すぎます、梅雨の晴れ間に・・・、真夏、猛暑日
30度を超える日が続いています。脊髓損傷の宿命か体温調節がうまく出来ない私にとつてはつらい夏が本番を前に体が付いていきません。周りから聞こえてくるような年だからね・・・

温かいご理解とご協力に感謝いたします。

そんな中、チャリティー太極拳講習会があり開会式と寄付贈呈式に参加してきました。今回で22回目の開催、越谷市武術太極拳連盟主催による市内二つの福祉施設にこの日の参加費・(カンパを含む、当日来られないひとからもこの趣旨に賛同して)を寄付していただいています。べしみを開所する資金へのカンパとして始った。

越谷太極拳の皆様、当日参加して下さった人たち(130名)の皆様に・・・、誠にありがとうございました。↓ 完君と一緒に・・・贈呈式に！



C型肝炎治療薬・・・、一日一錠 3ヶ月間無事終了・・・。 ↑

経過は一カ月後の検査ではウイルス検出せず・・・！という結果になりました。二ヶ月後の検査結果待ち・・・、なんとも言えませんがたぶん、一回目と同じかな?? それにしてもこの薬ハーボニー1錠5万円という値段にも驚き、効き目にも驚いています。7月末血液検査と受診・・・、そして3ヶ月後の結果をみて、完治したかどうか?楽しみですからだも気持ち的に良くなったような、しかし、この夏は暑い・暑い・アツイです。



夏のわらじは
盛りだくさんっ!

わらじの会周辺
ノンストップ
お祭りロード



せんげん台西祭り
(第4公園)
7/16(土)準備15:00~
祭りは17:00~21:00です
7/17(日)準備9:00~
祭りは10:00~21:00
です

武里平成通り商店会
夏祭り(駅前ぶあく)
7/30(土)準備15:00~
祭りは16:30~21:00です

武里 団地祭り
(近隣公園)
8/6(土)準備9:00~
祭りは10:00~19:00
です

越谷花火大会
(せ一緒にて販売します
7/30(土)詳細はせ一緒
までお尋ねくださいー

2016わらじ夏合宿 in熱海

8/26-27-28日
伊豆潮風館



「ううむ」
「どうかしなさんぽた?」
「ゆうべより寝られ
なんだけえでしよう」
「ううむ。」

泣いて笑って歩いたら、たろく飲んで高いびき。
寝るまで笑え 寝るまで叫べ。
寝るまで歩け、寝るまであおれ。
さあわらじ夏合宿で夏とがチンコ勝負だあ!

写真是小津安二郎
「東京物語」
熱海のシーンから

参加費
大人¥15000位
小学生¥4000位
初参加割引¥10000位
※詳細は号外をまたいよ!!



告知 7/31(日) CILわらじ総会開催!

CIL予算ついに枯渇!!取水金制限か!?

どうなる加盟会費!? つぐみとかががして押し付け合い!?

タイムリミット! かがし座2Fの家賃滞納か!?

7/31(日) べしみ食堂にて

13:30スタート!! 終了後はちょっと一杯♪ 懇親会もあるヨー♪

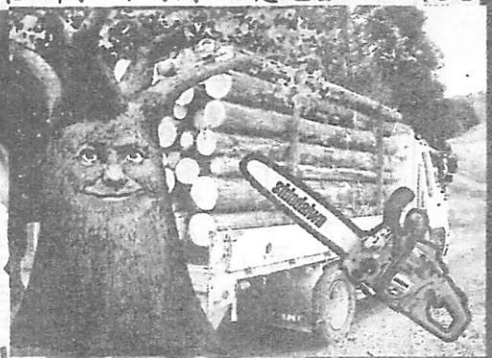
会費会則入会金一切なし。「来た時が会員」を信条とするわらじの会。しかしその一方で日中の活動の場としてのわらじの「各場」は、対象を決めた上で成立するいわゆる制度を使いながら、日中の活動や居場所、働きを組み上げてくる事ができました。

わらじの会の結成は1978年。設立以来37年を経過しようとしています。それはこの写真で言えば青年樋上が森の長老みたいになっちゃう時間でもあるのです(笑)

時代は変わっています。そしてまだまだ変わり続けることでしょう。なにより活動を始めた当初は介護なんて言葉すら馴染みのなかった時代なの]です。かつて森の中、いや町内のご意見番だった長老たちは今や刈り集められてデイサービスに行く時代であり、ヘルパー資格を持っている者に至っては国内に200万人を数えるという時代になっているのです。

合宿、バザー、クリスマスなど日頃一緒に汗をかいったり笑ったりする場は多いわらじの会ではありますが総会はありません。いわば真面目なことを話すなかなかないチャンスでもあるのです。

さあ!皆さんごぞってご参加ください。



職場参加ピアサポート堅持決める

6月16日、川崎市
障害者の職場参加を
すすめる会の2016年度
定期総会が開かれた。
昨年10年間受託し
ていた越谷市就労支
援センターが、越谷
市社協に受託先が変
わり、同法人は「世一
緒」を拠点とした本
部事業を継続してき
た。当面はセンター

に相談にまわっていた人
が就労定着できないよ
うに、就労準備を混
乱なくできるように
と世一緒を運営して
きた。柱としては「職
場参加」「ピアサポ
ート」「グループワー
ク」など。一般職場で必
要とされる「ハードル
」を越えることが困難
な障害者も、柔軟な

方法を駆使して地域
の職場に少しでも参
加し、障害者・関係
者と職場の人々が顔
見知りになり付き合
いを重ねながら共に
働く社会を切り開い
てゆこうという実践
を積み重ねてきた。
一年がたち、日中活
動に参加したりした
人たちの多くが一般就

◆門間愛さん(生活
ホーム、もんてん) 旭協 都市) ネットワーク合宿
医大に入院、手術。
◆旅する劇団、
くんに越谷公演の裏
に吉田久美子さん、藤
崎穂さんら出演。

◆藤波由香里さん(春
市) ネットワーク合宿
宮部さんに。
◆富倉幸絵さん結婚
谷市) おしりの蜂蜜織
災に緊急入院。点滴治
療中。

◆川崎会(衣松)へ吉
田久美子さん、会
友見さ

りや就労A型・B型
などへ移立った。し
かしもともと引きこ
もっていたり、家事
に追われていたりし
ていた人はそのまま
残り、あらたに生活
支援センターから紹
介されてきた人が加
わり、そして世一緒
から巣立っていった
人たちが夕方に立ち
寄り会社や家族の話
をして一息ついたり
挨拶していく場所に
なった。いったん世
一緒を開けることも
考えたが、立ち寄る
人も増え、就労支援
だけでなく、離職
支援を含む柔らかな
地域定着のためのピ

アサポートの場、共
に働く街づくりの場
として夕方の時間帯
に「たそがれ世一緒」
をあらためて立ち上
げることが話された。
「たそがれ世一緒」
は、重度障害者が管
理人となり高齢者等
の協力を得て週3日
開かれるという。

アサポートの場、共
に働く街づくりの場
として夕方の時間帯
に「たそがれ世一緒」
をあらためて立ち上
げることが話された。
「たそがれ世一緒」
は、重度障害者が管
理人となり高齢者等
の協力を得て週3日
開かれるという。

◆ネットワーキング合
宿ひらがれる
6月25、26日埼玉障
害者市民ネットワー
ク合宿が国立女性教
育会館で行われた。
県内各地から13名が
参加。わらびの会か
らは49人。夏の県交
渉に向けての課題た
どが話された。

わらじの会 NETWORK

代表代理	巽 優子	048(737)1489
春日部	平野 栄子	048(735)0173
	地域活動支援センター パタパタ	048(733)2743
	ブティック ぶあく	048(738)0643
	ケア・システム わら細工	048(738)4593
	黄色い部屋	048(737)1489
	春日部市障害者生活支援センター えん	048(737)3011
越谷		
	生活ホーム オエヴィス	048(975)1524
	生活ホーム もんてん	048(975)1021
	くらしセンター ベしみ	048(975)8511
	販売集団 吐夢亭(樋上方)	048(962)1195
	越谷市障害者生活支援センター 苞(ばお)	048(970)9393
草加	めだか工房	048(941)8001
神奈川	神奈川県藤沢 :三吉クリニック	046(627)7506

【月刊わらじ取扱店】 草加：福祉の店 めだか(勤労福祉会館内)
 新宿：模索舎 越谷：くらしセンターベしみ(恩間新田)
 さいたま：画廊「蔵」 春日部：ぶていっく ぶあく(大場)
 : 地域活動支援センターパタパタ(大場)



← わらじの会ホームページ

<http://warajinokai.sakura.ne.jp>

わらじブログ →

<http://cilwaraji.at.webry.info/>



編集後記

(合宿行きました。)

◎除草するぞ、除草するぞ、除草するぞ、
 ◎今年も見事に厄年満喫中。厄払い行こう。
 ◎老体にムチを打って、夏を極倉。
 ◎暑りゆきぞ。(夏)

◎昨年△夏合宿以来△参加 今年も参加し至す。(小)

◎ありがたうございます。(山田)

◎おまじないをうめてといわれ、うめをうめた。
 ◎39.72の熱で倒れました。娘は暑いと夜に。(内藤)

◎うなこれでしたが、私は寒かった...
 ◎おぐんこ不安倶楽部74日ETと大坂へ旅行しました。(山田)

8月号のテーマは...

「いくさ・戦争」をテーマに。

原稿おまちしています。

編集部一同